

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971600240	
法人名	社会福祉法人 八十八会	
事業所名	グループホーム南岳荘	
所在地	山梨県南アルプス市徳永436-1	
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会	
所在地	甲府市北新1-2-12	
訪問調査日	令和元年9月24日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの特徴として、ボランティアが数多く来荘して下さることが挙げられます。外出をあまり好まれない利用者様には良い気分転換の機会となり、とてもありがたい存在です。また荘内には移動が出来る通信カラオケがあり、毎週カラオケ大会のような盛り上がりが見られます。生活面では、浴室に座ったまま入浴できる浴槽があり、車イスを利用されている利用者様も不安なく入浴いただくことができます。健康面では、訪問歯科との契約ができ、定期的に口腔内のケアや治療を受けていただくことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、3階建ての1階にあり、2階・3階に特別養護老人ホームが併設されている。静かな環境で周りには、果樹園や農の駅があり、散歩時に地域の方と挨拶を交わす等交流を図っている。法人の理念を基に事業所独自の理念を作成し「出会いに感謝」「相手の思いを察する」「五感を活かし自ら動くこと」の3本柱を掲げまた、フロア毎の目標も立て管理者と共に全職員で一人ひとりの思いを大切にされた支援に日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム南岳荘		[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(あさがお)	ユニット名(コスモス)	実践状況
1.理念に基づく評価					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、管理者は事業所内の会議の席や日常的な会話の中で、理念を含んだ話しをするようにしている。	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、管理者は事業所内の会議の席や日常的な会話の中で、理念を含んだ話しをするようにしている。	法人の理念を基に地域密着型サービスを踏まえた事業者独自の3つの具体的な理念を掲げ、スタッフ会議や日々の関わりの中で、職員は半年に1回自己評価をし、次に繋げるよう理念の共有と実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	定期的に来荘下さる地域ボランティアの方が数名、不定期な地域ボランティアの来荘もある。ボランティアを通して地域交流の機会が増えている。	定期的に来荘下さる地域ボランティアの方が数名、不定期な地域ボランティアの来荘もある。ボランティアを通して地域交流の機会が増えている。	自治会に加入。近くの農の駅への散歩時には挨拶を交わしたり、大正琴・踊り・習字・フラダンス等、多くの地域のボランティアの訪問が定期的であり、地域の人たちとの交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを積極的に行い、出来る限り協力をしている。地域に向けては、なかなか発信の場がなく、運営推進会議の席で、地域での勉強会や相談会等がある際、協力ができることがあればさせていただきたいと提案させてもらっている。	実習生の受け入れを積極的に行い、出来る限り協力をしている。地域に向けては、なかなか発信の場がなく、運営推進会議の席で、地域での勉強会や相談会等がある際、協力ができることがあればさせていただきたいと提案させてもらっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の席で事業所からの報告等に対して委員の皆さんから質問・意見・要望等を伺いサービス向上につなげるようにしている。	会議の席で事業所からの報告等に対して委員の皆さんから質問・意見・要望等を伺いサービス向上につなげるようにしている。	2か月に1回、奇数月の第2火曜日開催し、事業所からのボランティア関係、日頃気になった事などの報告と共に、入院時の対応などについて、委員からの質問を受け会議の席で双方向的な会議となるよう配慮している。また、事業所が災害時に福祉避難所として受け入れる等、意見をサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスについての疑問や判断に困ってしまう事柄が発生した際には、市の担当者に相談しアドバイスをいただくようにしている。	サービスについての疑問や判断に困ってしまう事柄が発生した際には、市の担当者に相談しアドバイスをいただくようにしている。	事業所の報告や取組を伝えたり、利用者の困難事例の相談を行なう等、問題解決に向け一緒に取り組んだ。事業所の利用状況の問い合わせ等もあり、情報を共有し協力関係が築かれている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度、荘内研修を行っている。職員は利用者様が、さまざまな拘束により不快な思いをすることがないようなケアに取り組んでいる。ご家族には、契約時に身体拘束を行わないことを伝え、それに伴うリスクの説明をしている。現在、利用者様の安全確保の為、玄関の施錠をさせていただいている。利用者の要望や希望時には、いつでも柔軟に対応できるようにしている。	年に一度、荘内研修を行っている。職員は利用者様が、さまざまな拘束により不快な思いをすることがないようなケアに取り組んでいる。ご家族には、契約時に身体拘束を行わないことを伝え、それに伴うリスクの説明をしている。現在、利用者様の安全確保の為、玄関の施錠をさせていただいている。利用者の要望や希望時には、いつでも柔軟に対応できるようにしている。	身体拘束に関する研修会を、年1回外部講師より研修を受けて理解している。スピーチロックについて、常に話し合い、ユニット会議の折やリーダーを通して日頃の気付きを伝え振り返っている。リスクについても家族に説明し理解を得ている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で勉強する機会を持っている。管理者は職員の心身の様子に注意を払い、疲労やストレスによる虐待につながらないよう気をつけている。また、衣服の着脱時や入浴時等に、利用者様の身体の状態を拝見し、異常等がないか確認している。	内部研修で勉強する機会を持っている。管理者は職員の心身の様子に注意を払い、疲労やストレスによる虐待につながらないよう気をつけている。また、衣服の着脱時や入浴時等に、利用者様の身体の状態を拝見し、異常等がないか確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年から職員1名づつではあるが、権利擁護の研修に参加している。研修参加後には、他の職員達へ伝達研修を行い、制度の理解を深めるよう努めている。	一昨年から職員1名づつではあるが、権利擁護の研修に参加している。研修参加後には、他の職員達へ伝達研修を行い、制度の理解を深めるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ご本人・ご家族と話し合いの時間をもち説明をさせてもらっている。書類等にも十分目を通していたり時間的余裕を持ち、不安や疑問点にお答えしたうえで契約していただいている。	契約の前に、ご本人・ご家族と話し合いの時間をもち説明をさせてもらっている。書類等にも十分目を通していたり時間的余裕を持ち、不安や疑問点にお答えしたうえで契約していただいている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム南岳荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (あさがお)	ユニット名 (コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に対しては、日頃の生活の様子の変化等に出来るだけ早く気づくよう心がけ、声かけし意見や要望等を話していただけるよう努めてます。ご家族に対しては、面会時や電話で話をする際に、気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけています。	利用者様に対しては、日頃の生活の様子の変化等に出来るだけ早く気づくよう心がけ、声かけし意見や要望等を話していただけるよう努めてます。ご家族に対しては、面会時や電話で話をする際に、気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけています。	利用者の日常の過ごし方を工夫して欲しい。家族からの要望で、利用者を元気づけるため家族ボランティアによる、ゲーム・笛の演奏・身体を動かす等の機会を作り、意見・要望等を前向きに受け止め運営に反映させている。意見・要望等表す事ができない利用者は日々の様子や気づきから利用者主体の運営に結び付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行っており、その席上で各職員から意見等を聞くようになっています。提案や要望に対し、速やかに対処出来る事柄から実現するように努めている。	月に一度スタッフ会議を行っており、その席上で各職員から意見等を聞くようになっています。提案や要望に対し、速やかに対処出来る事柄から実現するように努めている。	日常業務の中で気が付いた事は言える環境にあり、職員の気付きで、朝日や西日が眩しい居室のカーテンを遮光カーテンに取り換え、またトイレの手すりの設置についても利用者との日常的な関わりから職員の意見で運営に取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、出来るだけ職員の仕事ぶりを把握する努力をしている。職員には長く勤めてもらいたい、利用者さまと馴染みの関係を築いてもらいたいと願っています。少しでも働きやすい職場になるよう環境作りに努めている。	管理者は、出来るだけ職員の仕事ぶりを把握する努力をしている。職員には長く勤めてもらいたい、利用者さまと馴染みの関係を築いてもらいたいと願っています。少しでも働きやすい職場になるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部で行なわれる研修に、積極的に参加できるように努めている。また資格取得を職員が目指せるよう、取得を勧めたり、情報等の発信を行なっている。	外部・内部で行なわれる研修に、積極的に参加できるように努めている。また資格取得を職員が目指せるよう、取得を勧めたり、情報等の発信を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会の研修会に参加し、県内のグループホームの職員さんと交流する機会を設けている。また市の施設部会にも参加して、他業種とも交流もできる機会を設けている。	山梨県グループホーム協会の研修会に参加し、県内のグループホームの職員さんと交流する機会を設けている。また市の施設部会にも参加して、他業種とも交流もできる機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、事前にケアマネジャーと看護職員が自宅等へ訪問し、ご本人と面談をさせていただいている。現在の生活の様子や今までの生活層等を伺い、スムーズに入居につながるよう努めている。	入居希望があった際は、事前にケアマネジャーと看護職員が自宅等へ訪問し、ご本人と面談をさせていただいている。現在の生活の様子や今までの生活層等を伺い、スムーズに入居につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がどのような経緯でサービスを利用されようと思われたのか、また、どのようなサービスを望まれているのかをお伺いします。ホーム側からは、どのようなサービスを提供できるのかを説明し、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。	ご家族がどのような経緯でサービスを利用されようと思われたのか、また、どのようなサービスを望まれているのかをお伺いします。ホーム側からは、どのようなサービスを提供できるのかを説明し、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にいただいた情報から、必要なサービスの導入を試みます。状況等をご本人・ご家族に相談・確認しながら、ご希望に添える支援をできるだけ柔軟に行えるよう努めている。	事前にいただいた情報から、必要なサービスの導入を試みます。状況等をご本人・ご家族に相談・確認しながら、ご希望に添える支援をできるだけ柔軟に行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様と対等の立場に立つてサービスを行うとの運営方針の下、ご本人の思いや、喜び、苦しみ、不安等を分かち合い、日々の暮らしの中で支え合う関係作りに努めている。	利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様と対等の立場に立つてサービスを行うとの運営方針の下、ご本人の思いや、喜び、苦しみ、不安等を分かち合い、日々の暮らしの中で支え合う関係作りに努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム南岳荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (あさがお)	ユニット名 (コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、利用者様の日ごとの生活の様子等をお伝えし、ご家族の思いと、職員の思いが共有できるよう努めている。また、利用者様にとってご家族の存在は何者にも変えることができない大切なものであることを折にふれお話ししている。	ご家族が面会に来られた際には、利用者様の日ごとの生活の様子等をお伝えし、ご家族の思いと、職員の思いが共有できるよう努めている。また、利用者様にとってご家族の存在は何者にも変えることができない大切なものであることを折にふれお話ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出されたり、ご家族対応での定期受診の帰りに、お気に入りの場所で食事や買い物をして来たりする利用者さま、またご自宅へ外泊される利用者様がおります。お友達が訪ねて来て下さる利用者様もいらっしゃいます。	お友達と旅行に出かけられたり、親戚宅に外泊される利用者様がおります。また、お友達が訪ねて来て下さる利用者様もいらっしゃいます。	家族と一緒にお盆や彼岸には出かける利用者もいる。利用者も高齢になり、以前の様に訪問する関係者も少なくなる中で、利用者からの希望があれば、出来るだけ家族や地域との接点を保ちながら、関係を続けられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく会話や活動を行うことができるように働きかけ、場をセッティングしている。また、個別にお話や相談ごとをお聞きする時間を取り、トラブルが生じないように関わっている。	利用者様同士が楽しく会話や活動を行うことができるように働きかけ、場をセッティングしている。また、個別にお話や相談ごとをお聞きする時間を取り、トラブルが生じないように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には契約が終了した後でも、何か力になれることがあれば相談していただけることをお伝えしている。	ご家族には契約が終了した後でも、何か力になれることがあれば相談していただけることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で利用者様の思いや意向を把握しながら支援している。意思疎通が困難な方には、日々の情報やご本人の言葉や表情から推察したり、ご家族に相談したりと、可能な限り本人本意に近づけるよう努力している。	日々のケアの中で利用者様の思いや意向を把握しながら支援している。意思疎通が困難な方には、日々の情報やご本人の言葉や表情から推察したり、ご家族に相談したりと、可能な限り本人本意に近づけるよう努力している。	日常的な関わりの中で、入浴時であったり、利用者によって手伝いをしてもらう中から思いや希望等を把握するように努めている。把握が困難な場合には利用者の表情や様子から推し測ったり、傾聴し、意向の把握に努め、職員が本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のライフスタイル・個性や価値観等を尊重し、穏やかに居心地の良い暮らしが出来るよう、入居する前の暮らし等を面談時のアセスメント等で確認し、職員が情報の共有をしている。	本人のライフスタイル・個性や価値観等を尊重し、穏やかに居心地の良い暮らしが出来るよう、入居する前の暮らし等を面談時のアセスメント等で確認し、職員が情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を個々のケア記録に残し、職員全員が把握、確認ができるようにしている。特に体調の変化・心理面・精神面の変化に注意し、現状の共有を図っている。	日々の生活状況を個々のケア記録に残し、職員全員が把握、確認ができるようにしている。特に体調の変化・心理面・精神面の変化に注意し、現状の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意志を聞き、介護計画の中に反映するようにしている。職員と定期的にカンファレンスの時間を設けてアセスメントを行い、現状に近い介護計画を作成している。	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意志を聞き、介護計画の中に反映するようにしている。職員と定期的にカンファレンスの時間を設けてアセスメントを行い、現状に近い介護計画を作成している。	入居時に本人、家族の意向を聞き暫定プランを作成し、その後はユニット会議の中でリスク表を踏まえて、ケアマネジャーを中心に(会議に出席できない職員には、事前に検討項目を提出してもらう)利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排せつ等、また個別に必要な場合は合わせて、水分量・睡眠量・血圧等のチェックシートを使用し、日々の健康状態の把握をしている。利用者様の変化や職員の気付いたことは個々の記録と回覧用ノートに残し情報の共有している。またスタッフ会議等の場でケアの見直し等々を検討している。	食事・排せつ等、また個別に必要な場合は合わせて、水分量・睡眠量・血圧等のチェックシートを使用し、日々の健康状態の把握をしている。利用者様の変化や職員の気付いたことは個々の記録と回覧用ノートに残し情報の共有している。またスタッフ会議等の場でケアの見直し等々を検討している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム南岳荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あさがお)	ユニット名(コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の送迎などは原則ご家族対応となっているが、緊急時やご家族の都合が悪い時はホーム内で対応している。また、福祉車両の貸し出しもやっている。	定期受診の送迎などは原則ご家族対応となっているが、緊急時やご家族の都合が悪い時はホーム内で対応している。また、福祉車両の貸し出しもやっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対応の期間以外、地域との交流の一環として、ボランティアの受け入れを積極的にしている。書道・体操・歌・踊り・楽器演奏等、様々なボランティアに月1回以上来荘してもらい、利用者様に日常とは異なる刺激を心と体に体感してもらっている。	感染症対応の期間以外、地域との交流の一環として、ボランティアの受け入れを積極的にしている。書道・体操・歌・踊り・楽器演奏等、様々なボランティアに月1回以上来荘してもらい、利用者様に、日常とは異なる刺激を心と体に体感してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が信頼している医師に主治医をお願いしている。受診の際、医師に伝えたい情報を、ご家族にメモ等でお渡ししたり、職員が同行して伝えたりしている。歯科については、希望により訪問診療を受けることも出来るようにしている。	ご本人やご家族が信頼している医師に主治医をお願いしている。受診の際、医師に伝えたい情報を、ご家族にメモ等でお渡ししたり、職員が同行して伝えたりしている。歯科については、希望により訪問診療を受けることも出来るようにしている。	入居前からのかかりつけ医が決まっていない利用者には、事業所の嘱託医がかかりつけ医となっている。家族との定期受診時、送迎が必要な場合、職員が利用者を受診場所へ送って行き家族の様子を伝えている。医師との情報の共有ができています。歯科医の往診が週1回あり、希望者が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員・介護職員は、利用者様の観察・健康チェック表・排泄チェック表等により、利用者様の日々の体調変化などを見逃さないよう早期発見に努めています。また、緊急時には、看護職員が24時間対応出来る体制をとっている。	看護職員・介護職員は、利用者様の観察・健康チェック表・排泄チェック表等により、利用者様の日々の体調変化などを見逃さないよう早期発見に努めています。また、緊急時には、看護職員が24時間対応出来る体制をとっている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の看護サマリーを提出し、情報を伝達している。また、お見舞いなどで経過の様子を知るようにしている。退院時は医療機関とカンファレンスを行い情報を職員で共有している。	入院時は利用者様の看護サマリーを提出し情報を伝達している。また、お見舞いなどで経過の様子を知るようにしている。退院時は医療機関とカンファレンスを行い情報を職員で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの相談も聞かれるようになってきています。また看取りへの取り組みは不十分な状態ですが、ホーム内で現状できることを、ご家族と主治医と話し合いを持ちながら対応させてもらっている。ケアプランの説明の際には、重度化した際や終末期に対するご家族のお考えを確認するように努めている。	ご家族からの相談も聞かれるようになってきています。また看取りへの取り組みは不十分な状態ですが、ホーム内で現状できることを、ご家族と主治医と話し合いを持ちながら対応させてもらっている。ケアプランの説明の際には、重度化した際や終末期に対するご家族のお考えを確認するように努めている。	継続的に医療行為が必要になり重度化した段階で、家族、医師と話し合い、安心して納得した最期を迎えられるように、確認しながら関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、落ち着いて行動ができるようマニュアルを準備してある。原則マニュアルに沿って対応することになっている。年に一度、普通救急救命講習を実施しているが、定期的な訓練の実施という点では不十分な状況です。	緊急時の対応については、落ち着いて行動ができるようマニュアルを準備してある。原則マニュアルに沿って対応することになっている。年に一度、普通救急救命講習を実施しているが、定期的な訓練の実施という点では不十分な状況です。		
35	(13)	○災害対策 災害マニュアルを作成、消防署の協力のもと日中、夜間を想定した火災に対する避難訓練を年2回、また、南岳荘独自で地震想定・水害想定での避難訓練を年に数回、また職員の緊急時伝達訓練も年に数回実施している。	災害マニュアルを作成、消防署の協力のもと日中、夜間を想定した火災に対する避難訓練を年2回、また、南岳荘独自で地震想定・水害想定での避難訓練を年に数回、また職員の緊急時伝達訓練も年に数回実施している。	災害マニュアルを作成、消防署の協力のもと日中、夜間を想定した火災に対する避難訓練を年2回、また、南岳荘独自で地震想定・水害想定での避難訓練を年に数回、また職員の緊急時伝達訓練も年に数回実施している。	職員は、年2回消防署の指導で地震車・煙体験ハウスでの訓練を行っている。また、事業所のらせん階段においても避難訓練を行い、課題を見つけ次に繋げている。備蓄品として、食料3日分・石油ストーブ・各居室前に防災頭巾を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の生活層等を把握しうえでの話題や言葉掛けを心掛け、親しい関係が慣れにならないよう注意を回している。また、職員の言葉掛けにより、利用者様が不快な気持ちになることのないよう気をつけている。	お一人お一人の生活層等を把握しうえでの話題や言葉掛けを心掛け、親しい関係が慣れにならないよう注意を回している。また、職員の言葉掛けにより、利用者様が不快な気持ちになることのないよう気をつけている。	年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないように言葉づかい等、日常的に確認をしている。人格の尊重について、職員は、日常的ケアに当たって、感情をコントロールする様、具体的に確認し合い事業所全体で取り組んでいる。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム南岳荘		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あさがお)	ユニット名(コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週一度、昼食を2つのメニューから選んでもらう選択食を決めてもらっている。また選挙が行われる際、希望される利用者様には、ご家族もしくは職員付き添いにて投票に行ってもらっている。	週一度、昼食を2つのメニューから選んでもらう選択食を決めてもらっている。また選挙が行われる際、希望される利用者様には、ご家族もしくは職員付き添いにて投票に行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、個室ならではのライフスタイルを尊重しています。居室や居間でテレビを見られたり本読まれたり、食事の準備をされたり、日中お気に入りの場所であつたりがたりしている方もいます。	基本的な一日の流れはありますが、個室ならではのライフスタイルを尊重しています。居室や居間でテレビを見られたり本読まれたり、食事の準備をされたり、日中お気に入りの場所であつたりがたりしている方もいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身支度は、意思表示をして下さる方が少なく、職員がかかわりながら選んでいる。各種イベントの日には、特におしゃれの装いで参加していただけるよう支援している。	日々の身支度は、意思表示をして下さる方が少なく、職員がかかわりながら選んでいる。各種イベントの日には、特におしゃれの装いで参加していただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則、食事は事業所内の厨房で準備している。ご飯と味噌汁はホームで準備し、盛り付け、配膳、下膳等を複数の利用者様が職員と一緒にやっている。メニューに苦手なものがある場合は、違う物に変えたり、週に一度の選択食では好みの食事を選んでもらっている。また、体調に合わせ、食事の形態や療養食等、柔軟に対応できるようにしている。	原則、食事は事業所内の厨房で準備している。ご飯と味噌汁はホームで準備し、盛り付け、配膳、下膳等を複数の利用者様が職員と一緒にやっている。メニューに苦手なものがある場合は、違う物に変えたり、週に一度の選択食では好みの食事を選んでもらっている。また、体調に合わせ、食事の形態や療養食等、柔軟に対応できるようにしている。	週に一度、2種類のメニューから選択する機会もある。畑で作った野菜やスイカで調理し楽しんでいる。外食に行く機会が少ない事もあり、移動販売車で来る売店から好みの物を買う利用者もいる。職員と一緒に男性利用者もテーブル拭き・食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分の摂取量や残量を記録に残し、職員間で情報を共有している。食事量の少ない方には補食を、水分が摂れていない方にはご家族の了承を得て、ジュース類や水分ゼリー等で補うようにしている。必要な方には、療養食も提供している。	個々の食事・水分の摂取量や残量を記録に残し、職員間で情報を共有している。食事量の少ない方には補食を、水分が摂れていない方にはご家族の了承を得て、ジュース類や水分ゼリー等で補うようにしている。必要な方には、療養食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には声掛け、見守りで最後に職員が一部介助で仕上げを行わせていただいている。義歯の方には就寝前に洗浄剤を使用させていただいている。また訪問歯科との契約をされている利用者様は、定期的に口腔内のケアと必要時に治療をされている。	ご自分で出来る方には声掛け、見守りで最後に職員が一部介助で仕上げを行わせていただいている。義歯の方には就寝前に洗浄剤を使用させていただいている。また訪問歯科との契約をされている利用者様は、定期的に口腔内のケアと必要時に治療をされている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のトイレ時のサインに注意しながら気持ちよく排泄していただけるように支援している。また、身体機能に応じた介助、排泄用具(パッド他)等も適時適切な方法で検討している。座位が保てる利用者様には、トイレやポータブルトイレを使用いただき、出来るだけ自然な形で排泄いただけるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、個々のトイレ時のサインに注意しながら気持ちよく排泄していただけるように支援している。また、身体機能に応じた介助、排泄用具(パッド他)等も適時適切な方法で検討している。座位が保てる利用者様には、トイレやポータブルトイレを使用いただき、出来るだけ自然な形で排泄いただけるよう支援している。	排泄パターンで言葉かけ誘導しているが、日常の様子から生活リズムに添って行きたい時にトイレに行く事が出来るように試行錯誤しながら取り組んでいる。夜間については、ポータブルトイレ・安眠のためにおむつを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、自然排便を促すような食べ物、飲み物の提供を心掛けています。腸の動きを良くするために体操や散歩等で体を動かしていただくことも試みている。	出来るだけ薬に頼らず、自然排便を促すような食べ物、飲み物の提供を心掛けています。腸の動きを良くするために体操や散歩等で体を動かしていただくことも試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか自由に入浴をしていただくことは難しい状況ですが、事前に入浴のあることをお伝えし承せていただいている。職員とマンツーマンの時間が持てる場なので、会話をしながら、楽しく湯浴できるよう支援している。	なかなか自由に入浴をしていただくことは難しい状況ですが、事前に入浴のあることをお伝えし承せていただいている。職員とマンツーマンの時間が持てる場なので、会話をしながら、楽しく湯浴できるよう支援している。	基本的には、一人週2回は利用する様に声掛けをしている。浴槽は、個浴と中間浴槽の2つがある。同性介護の希望があれば、利用者の心情を察した配慮をしている。入浴後、皮膚等の状況によりスキンケアの保湿剤を利用し、個々に添った支援をしている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム南岳荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (あさがお)	ユニット名 (コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、安眠につながる支援を行っている。個々の睡眠パターンを把握しながら排泄介助のタイミングを決めている。また、物音、照明等にも注意を払っている。	日中の活動を多くし、安眠につながる支援を行っている。個々の睡眠パターンを把握しながら排泄介助のタイミングを決めている。また、物音、照明等にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋の内容を職員が十分に理解把握できる様、表を作り綴りにしていつでも確認できるようにしている。服薬はマニュアルに沿って職員が利用者様の名前、薬の確認、服用終了までを確認する。薬の管理は看護職員が行っている。	個々の処方箋の内容を職員が十分に理解把握できる様、表を作り綴りにしていつでも確認できるようにしている。服薬はマニュアルに沿って職員が利用者様の名前、薬の確認、服用終了までを確認する。薬の管理は看護職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担によって、本人の得意とする分野を發揮していただき、生きがいや張りのある生活を送ってもらえるよう職員が働きかけをしている。(洗濯物干し、食事の準備、食事前のあいさつ、花壇・畑の水やり等)	役割分担によって、本人の得意とする分野を發揮していただき、生きがいや張りのある生活を送ってもらえるよう職員が働きかけをしている。(洗濯物干し、食事の準備、食事前のあいさつ、花壇・畑の水やり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・季節に応じて屋内外での散歩を多くの利用者様に定期的に楽しんでもらっている。また、さくらんぼ狩りやお花見・そうめん流し・紅葉狩等々の企画をし、希望される方の支援をしている。	天候・季節に応じて屋内外での散歩を多くの利用者様に定期的に楽しんでもらっている。また、さくらんぼ狩りやお花見・そうめん流し・紅葉狩等々の企画をし、希望される方の支援をしている。	天候によって近くの公園へ、車椅子の利用も、独歩が出来る利用者の手助けで、近くの公園へ散歩に出かけている。さくらんぼ祭りや地域の牡蠣(姉妹市提供)祭りに出かけ積極的に支援をしている。また、家族の協力が出掛けられる様、働きかけも行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方には、その都度必要な時に必要額をご自身の財布で所持している。近隣のお店に買い物に行かれる際、ご自身で支払いをしていただくようにしている。	自己管理の出来る方には、その都度必要な時に必要額をご自身の財布で所持している。近隣のお店に買い物に行かれる際、ご自身で支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話があり、自由に使用いただくことが出来る。	各部屋に電話があり、自由に使用いただくことが出来ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは季節を感じられるよう、皆さんで作ったカレンダーや飾りで装飾している。また、書道の作品や外出や行事等で撮った写真も飾り、話題づくりのきっかけになっている。	フロアは季節を感じられるよう、皆さんで作ったカレンダーや飾りで装飾している。また、書道の作品や外出や行事等で撮った写真も飾り、話題づくりのきっかけになっている。	玄関の両側に各ユニットがあり、それぞれが広く食堂を兼ねた共有のスペースとなっている。ピアノが置いてあり、利用者が気分の良い時に自由に弾くことが出来る。浴室は、明るく利用者にとって不安を感じさせない備えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビで好きな相撲や娯楽番組を観て過ごしていただいたりしている。ご家族が来られた際には、居室でゆっくり過ごしていただいたり、ご家族が大勢の時は地域交流室を自由に使用いただけるようにしている。	テレビで好きな相撲や娯楽番組を観て過ごしていただいたりしている。ご家族が来られた際には、居室でゆっくり過ごしていただいたり、ご家族が大勢の時は地域交流室を自由に使用いただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への愛用品の持ち込みは、危険な物でない限り自由にお持ちいただいている。ご本人が安心した生活が送れるよう、その方らしいお部屋になるように支援している。ご家族、お孫さん、曾孫さんの写真が多く飾られている部屋もある。	居室への愛用品の持ち込みは、危険な物でない限り自由にお持ちいただいている。ご本人が安心した生活が送れるよう、その方らしいお部屋になるように支援している。ご家族、お孫さん、曾孫さんの写真が多く飾られている部屋もある。	居室は、大きな整理棚があり衣類や日常生活用品が収納されている。テレビ・位牌・家族写真・利用者自身が描いた墨絵などが飾り、思い出の品々が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁や廊下、また、トイレ・浴室にも手すりが設置してあり、歩行に少し不安のある方でも安心して歩いていただけるような対策をしている。ホーム内には、平行棒が設置してあり、日常のリハビリとして歩行訓練に使用している。	壁や廊下、また、トイレ・浴室にも手すりが設置してあり、歩行に少し不安のある方でも安心して歩いていただけるような対策をしている。ホーム内には、平行棒が設置してあり、日常のリハビリとして歩行訓練に使用している。		